

プロジェクトメンバー研究業績一覧

以下、各研究グループごとに五十音順でプロジェクトメンバーの2009年度の業績一覧を掲載する。

長田 俊樹 総合地球環境学研究所・プロジェクトリーダー

【編著】

長田俊樹・長田礼子・遠藤光暁・竹越孝・太田斎・橋本貴子（編）（2010）『長田夏樹先生追悼集』
好文出版

Osada, T. and A. Uesugi (eds.) (2010) *Current Studies on the Indus Civilization* Vol.1. Manohar, Delhi.

Osada, T. and A. Uesugi (eds.) (2010) *Current Studies on the Indus Civilization* Vol.2. Manohar, Delhi.

Osada, T. and A. Uesugi (eds.) (2010) *Current Studies on the Indus Civilization* Vol.3. Manohar, Delhi.

Osada, T. and M. Onishi (eds) (2010) *Language Atlas of South Asia*. Indus Project, Research Institute for
Humanity and Nature, Kyoto.

Osada, T. and A. Uesugi (eds.) (2011) *Current Studies on the Indus Civilization* Vol.4. Manohar, Delhi.

Osada, T. and A. Uesugi (eds.) (2011) *Current Studies on the Indus Civilization* Vol.6. Manohar, Delhi.

Osada, T. and A. Uesugi (eds.) (2011) *Current Studies on the Indus Civilization* Vol.7. Manohar, Delhi.

Osada, T. and A. Uesugi (eds.) (2011) *Current Studies on the Indus Civilization* Vol.9. Manohar, Delhi.

Osada, T. and A. Uesugi (eds.) (2011) *Occasional Paper 10: Linguistics, Archaeology and the Human Past*. Indus
Project, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.

Osada, T. and H. Endo (eds.) (2011) *Occasional Paper 12: Linguistics, Archaeology and the Human Past*. Indus
Project, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.

【論文】

T. Osada and N. Evans (2011) "Mundari reciprocals", N. Evans, A. Gaby, S. Levinson and A. Majid (eds.)
Reciprocals and Semantic Typology. John Benjamin. pp. 115-128.

【その他】

長田俊樹 (2010) 「言語多様性の生成」「インダス文明と環境変化」総合地球環境学研究所（編）
『地球環境学事典』弘文堂

長田俊樹 (2010.05) 「環境変化とインダス文明」日本地球惑星科学連合 2010 年大会 幕張メッ
セ

Osada, T. (2010.09) Rethinking on the tribal people in Jharkhand: Nature-oriented society vs. Norm-oriented
society, Chotro, Delhi, India .

Osada, T. (2010.10) Indus project of RIHN, Harvard Roundtable, Harvard University, USA.

Osada, T. (2010.10) A comparative study of Munda creation myths, Radcliffe Exploratory Seminar on
Comparative Mythology. Harvard Roundtable, Harvard University, USA.

古環境研究グループ

熊原 康博 群馬大学教育学部・プロジェクトメンバー

【論文】

熊原康博・渡辺満久・中田 高・小岩直人 (2011) 「2011 年東北地方太平洋沖地震に伴う津波の痕跡とその被害」『第四紀研究』 50、149-152 頁

渡辺満久・中田 高・小岩直人・熊原康博 (2011) 「津波被災マップと三陸海岸の津波遡上高」『地理』 56-6、58-63 頁

熊原康博 (2011) 「群馬県内の中山道沿いの地形条件—平野から山地に至る境界の事例として—」『えりあぐんま』 17、29-42 頁

【学会発表】

熊原 康博 (2010) 「インド・パンジャブ州におけるヒマラヤ前縁の活断層地形」日本地球惑星科学連合 2010 年大会、2010 年 05 月 23 日 -2010 年 05 月 28 日、幕張メッセ国際会議場

チョペルジャミアン・熊原康博 (2011) 「ブータン南部の活断層の特徴とアクティブテクトニクスへの適用」日本地球惑星科学連合 2010 年大会、2011 年 05 月 24 日、幕張メッセ国際会議場

長友 恒人 奈良教育大学教育学部・プロジェクトメンバー

【論文】

下岡順直・長友恒人 (2010) 「光ルミネッセンス法による忠類晩成地点における堆積物の年代推定」『化石研究会会誌』 特別号第 4 号、43-45 頁

下岡順直・長友恒人 (2011) 「ルミネッセンス法による旧石器遺跡の鍵層となるテフラの年代推定—宮城県南部を例として—」『考古学と自然科学』 62、73-84 頁

下岡順直・佐川正敏・長友恒人・衛 奇・胡 平・曹 明明 (印刷中) 「中国泥河湾盆地における後期更新世の地形変遷の年代に関する予察—華北地方における現生人類の出現と文化内容の解明を目指して—」『中国考古学』 11

青木智史・綱真奈美・長友恒人 (印刷中) 「TL 法による新薬師寺旧境内遺跡出土瓦の年代測定」『奈良教育大学紀要 (自然科学)』 第 60 巻 第 2 号

【査読無し論文など】

長友恒人 (2010) 「ルミネッセンスで年代を測る」『化学と工業』 Vol.63.6、481-483 頁

下岡順直・高木佑介・長友恒人 (2011) 「南九州における考古遺跡編年に関連した指標テフラの熱ルミネッセンス年代測定」『九州旧石器』 14 号、117-124 頁

前李英明・下岡順直・長友恒人・八木浩司 (2010) 「盛期ハラッパー文明期におけるガッガル川の河川環境 - 大河サラスワティーは存在したのか -」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』 総合地球環境学研究所、25 -38 頁

下岡順直・長友恒人・前李英明 (2010) 「インダス文明に関連したガッガル川河畔砂丘の光ルミネッセンス (OSL) 年代測定」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』 総合地球

環境学研究所、39-44 頁

Shitaoka, Y., Miyoshi, M., Yamamoto, J., Shibata, T., Takemura, K. and Nagatomo, T. (2011) "Preliminary report for Thermoluminescence dating of lava rock from Oninomi monogenetic volcano in central Kyushu, Japan", *Institute for Geothermal Sciences, Kyoto University, Annual Report FY2010*, pp. 14-21.

【報告書】

長友恒人・小畑直也・下岡順直 (2010) 「竹佐中原遺跡における地層の光ルミネッセンス年代測定について」『長野県竹佐中原遺跡における旧石器時代の石器文化Ⅱ、国道 474 号（飯喬道路）埋蔵文化財発掘調査報告書 2—飯田市内その 2』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 85（国土交通省中部地方整備局、長野県埋蔵文化財センター）、1-6 頁

青木智史・長友恒人 (2010.3.20) 「TL 法による陶磁器真贋判定 —その方法と適用について」『民族藝術』VOL. 26、247-257 頁

前杵 英明 広島大学大学院教育学研究科・コアメンバー

【論文】

Iizuka, Y., H. Miura, S. Iwasaki, H. Maemoku, T. Sawagaki, R. Greve, H. Satake, K. Sasa and Y. Matsushi (2010) "Evidence of past migration of the ice divide between the Shirase and Sôya drainage basins derived from chemical characteristics of the marginal ice in the Sôya drainage basin, East Antarctica", *Journal of Glaciology* Vol.56, No.197: 395-404.

Yamane, M., Y. Yokoyama, H. Miura, H. Maemoku, S. Iwasaki and H. Matsuzaki (2011) "The last deglacial history of Lützow-Holm Bay, East Antarctica", *Journal of Quaternary Science* DOI:10.1002/jqs.1465.

【その他】

前杵英明・長友恒人・下岡順直・八木浩司 (2010) 「盛期ハラッパー文明期におけるガッガル川の河川環境—大河サラスワティーは存在したのか—」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』総合地球環境学研究所、25-38 頁

下岡順直・長友恒人・前杵英明 (2010) 「インダス文明に関連したガッガル川河畔砂丘の光ルミネッセンス (OSL) 年代測定」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』総合地球環境学研究所、39-44 頁

八木浩司・前杵英明・長田俊樹 (2010) 「ララ湖掘削プロジェクト計画立案と実施に向けた調整と準備」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』総合地球環境学研究所、53-58 頁

Yagi, H., H. Maemoku, M. Okamura, H. Matsuoka, T. Osada, H. Teramura, D.P. Adhikari, V. Dangol (2010) 「Rara Lake, its bathymetric features and origin, Jumla District, western Nepal Himalayas」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』総合地球環境学研究所、59-62 頁

中村淳路・横山祐典・前杵英明・八木浩司・岡村 眞・松岡裕美・三宅 尚・長田俊樹・寺村裕史・山田智輝・D.P. Adhikari, V. Dangol・松崎浩之 (2010) 「ネパール・ララ湖堆積物コアを用いたアジアモンスーンの復元」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』総合地球環境学研究所、63-66 頁

窪田 薫・横山祐典・坂井三郎・前杵英明・P. Ajithprasad・長田俊樹 (2010) 「インダス文明遺跡

から発掘された魚類耳石を用いた古環境復元」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』総合地球環境学研究所、79-82 頁

前杵英明 (2010) 「河況変化と古環境」総合地球環境学研究所 (編) 『地球環境学事典』弘文堂、664 頁

松岡 裕美 高知大学理学部災害科学講座

【論文】

萩野恭子・堀口健雄・高野義人・松岡裕美 (2011) 「サイズ変化を伴った円石藻の種分化 - 古生物学的・生物学的手法に基づいた検証 -」『日本プランクトン学会報』58、73-80 頁

【発表】

松岡裕美・岡村 眞 (2011.05) 「土佐湾奥部蟹ヶ池の堆積物中に見られる約 2000 年前のイベント」地球惑星科学連合大会、千葉

岡村 眞・松岡裕美・尾崎 誠・前杵英明・八木浩司・中村淳路・横山祐典・寺村裕史・長田俊樹 (2011.05) 「西ネパール・ララ湖底コアの完新世堆積物」地球惑星科学連合大会、千葉

宮内 崇裕 千葉大学大学院理学研究科・プロジェクトメンバー

【論文】

Berryman, K., Y. Ota, T. Miyauchi, A. Hull, K. Clark, K. Ishibashi, N. Iso, and N. Litchfield (2011) "Holocene paleoseismic history of upper plate faults in the southern Hikurangi subduction margin, New Zealand, deduced from marine terrace records", *Bulletin of Seismological Society of America* 101: 2064-2087.

【図書その他】

鈴木康弘・岡田篤正・澤 祥・千田 昇・宮内崇裕・八木浩司 (2010) 「都市圏活断層図本曾山脈西縁断層帯とその周辺「妻籠」」『1/25,000 図幅及び説明書』国土地理院、27 頁

杉戸信彦・池田安隆・岡田篤正・後藤秀昭・平川一臣・宮内崇裕 (2010) 「都市圏活断層図富良野断層帯とその周辺「富良野北部」」『1/25,000 図幅』国土地理院

後藤秀昭・池田安隆・岡田篤正・杉戸信彦・平川一臣・宮内崇裕 (2010) 「都市圏活断層図富良野断層帯とその周辺「富良野南部」」『1/25,000 図幅』国土地理院

【学会発表】

宮内崇裕・前杵英明・松岡裕美・長田俊樹・J.S. カラクワル (2010.5.27) 「海湾に面するインダス文明の盛衰に影響を与えた完新世後期海岸平野の環境変化—地形発達と相対的海面変化の分析から—」2010 年地球惑星科学連合大会、HQR010-04、千葉市

小形祐美・宮内崇裕・金田平太郎 (2010.5.25) 「日本海東縁、飛島海成段丘の変位をもたらす地震性地殻変動」2010 年地球惑星科学連合大会、SSS017-P06、千葉市

遠藤香織・宮内崇裕・金田平太郎 (2010.5.25) 「1804 年象潟地震の震源断層—離水海岸地形からの再検討—」2010 年地球惑星科学連合大会、SSS017-P07、千葉市

石川達郎・宮内崇裕・金田平太郎 (2010.5.25) 「佐渡海嶺，小佐度丘陵・佐渡小木半島の地震性隆起プロセスー海成段丘と断層モデルによる解析からー」2010 年地球惑星科学連合大会、SSS017-P08、千葉市

Hashima, A., T. Sato, T. Ito, T. Miyauchi, H. Furuya, N. Tsumura, K. Kameo and S. Yamamoto (2010) "3-D simulation of temporal change in tectonic deformation pattern and evolution of the plate boundary around the Kanto Region of Japan due to the collision of the Izu-Bonin Arc", 2010 AGU Fall Meeting, San Francisco, USA.

Miyauchi, T., H. Maemoku, H. Matsuoka, T. Osada, J.S. Kharakwal (2011) "Late Holocene geomorphic coastal changes affecting the mutation of bay-facing Harappan sites of the Indus civilization, Gujarat, India", American Geophysical Union Chapman Conference on Climate, Past Landscapes and Civilizations, 21-25 March, 2011, Santa Fe, New Mexico, USA.

小形祐美・宮内崇裕 (2011.5.25) 「白神山地西縁，西津軽海岸の波状隆起をもたらす震源断層の推定」2011 年地球惑星科学連合大会、SSS032-P06、千葉市

宮内崇裕 (2011.5.25) 「旧汀線情報を用いた海域震源断層モデリングー日本海東縁変動帯の地震発生ポテンシャル評価に向けてー」2011 年地球惑星科学連合大会、SSS032-P05、千葉市

Miyauchi, T. (2011) "Offshore fault modeling using late Quaternary marine terrace records in the crustal shortening zone of Northeast Japan back-arc", XVIII INQUA-Congress, Bern, 2011.

副田宜男・宮内崇裕 (2011) 「人工衛星データを利用したスマトラ断層沿いの変動地形解析ー横ずれ断層の運動に伴う地溝状盆地の形成に関連してー」『日本活断層学会 2011 年度秋季学術大会講演予稿集』46-57 頁

遠藤香織・宮内崇裕 (2011) 「房総半島南部完新世離水海岸地形の高度と離水年代の再検討ー相模トラフ沿いの巨大地震に伴う地震性地殻変動に関連してー」『日本活断層学会 2011 年度秋季学術大会講演予稿集』52-53 頁

Hashima, A., T. Sato, T. Ito, T. Miyauchi, K. Kameo and S. Yamamoto (2011) "3-D simulation for the tectonic evolution around the Kanto Region of Japan using the kinematic plate subduction model", 2011 AGU Fall Meeting, San Francisco, USA.

生業システム研究グループ

大田 正次 福井県立大学生物資源学部・コアメンバー

【論文・著書】

Ozkan H., M. Tuna, B. Kilian, B., N. Mori and S. Ohta (2010) "Genome size variation in diploid and tetraploid wild wheats", *AoB Plants* Vol. 2010

大田正次 (2010) 「コムギ」 鶴飼保雄・大澤良編『品種改良の世界史ー作物編ー』悠書館、41-66 頁

大田正次 (2010) (分担執筆) 石川統ら編『生物学辞典』東京化学同人

【学会等発表】

Takagi, T., N. Mori, S. Ohta, H. Chiba, V. Shinde, M. Kajale and T. Osada (2010) "Genetic diversity of

emmer wheat and Indian dwarf wheat in India inferred from chloroplast DNA analysis”. 日本育種学会
第 118 回講演会、秋田県立大学

八杉有香・森 直樹・大田正次 (2010) 「葉緑体ゲノムの遺伝的変異からみたコムギ近縁野生種
Aegilops umbellulata の多様性と *Ae. neglecta* 及び *Ae. columnaris* の倍数性進化」 日本育種学会第
118 回講演会、秋田県立大学.

大田正次・森直樹・Hakan Ozkan (2010) 「野生四倍性コムギにおける種子休眠性の小穂内二型
性—トルコ南東部の自然集団における発芽調査—」 日本育種学会第 119 回講演会、横浜市
立大学

Mori, N., S. Ohta, H. Chiba, V. Shinde and M. Kajale (2010) “Rediscovery of the relict cultivation of the
ancient Indus crop, Indian dwarf wheat, in southwestern India”. 日本育種学会第 119 回講演会、横
浜市立大学

Ohta, S., N. Mori and H. Chiba (2011) “The two ancient wheats, emmer wheat and Indian dwarf wheat, are
still alive in India – their cultivation and utilization—”. 総合地球環境学研究所研究プロジェクト「環
境変化とインダス文明」国際シンポジウム、総合地球環境研究所

大田正次・森 直樹・千葉 一・V. Shinde・長田俊樹 (2011) 「インドにおけるエンマーコムギ
の栽培と伝統的利用」 日本育種学会第 120 回講演会、福井県立大学

森直樹・八杉有香・大田正次 (2011) 「オルガネラゲノムの変異からみたコムギ近縁野生種
Aegilops umbellulata, *Ae. neglecta* 及び *Ae. columnaris* の多様性と系統関係」 日本育種学会第
120 回講演会、福井県立大学

大田正次 (2011) 「フィールド調査で感じたコムギ近縁野生種の多様性」 第 6 回ムギ類研究会、
横浜市立大学木原生物学研究所

山田ちなつ・荻安理恵・山内彩紗子・渡部美樹・大田正次 (2011) 「野生二粒系コムギの小穂内
に見られる穎果の形態と休眠性の二型性」 第 6 回ムギ類研究会、横浜市立大学木原生物学
研究所

荻安理恵・山田ちなつ・渡部美樹・大田正次 (2011) 「野生および栽培二粒系コムギの間の F1 お
よび F2 種子の形態と休眠性」 第 6 回ムギ類研究会、横浜市立大学木原生物学研究所

【その他】

大田正次 (2011) 「インダス文明を支えた作物「インド矮性コムギ」の再発見」 総合地球環境学
研究所平成 22 年度第 4 回プレス懇談会、ハートピア京都

千葉 一 東北学院大学・プロジェクトメンバー

【論文・エッセイなど】

大田正次・千葉 一・三浦励一・森 直樹 (2010) 「生業システム研究グループ 2009 年度活動報告」
『環境変化とインダス文明 2009 年成果報告書』 総合地球環境学研究所 93-102 頁

千葉 一 (2011) 「インドの民主主義と経済政策に見る格差問題」 『社会福祉論：人間の共生と
格差を考える—多文化共生とは何か—』 東北学院大学社会福祉研究所、135-159 頁

千葉 一 (2011) 「エンマーコムギの利用法と混乱」 『インダス・プロジェクト ニュースレター』
第 8 号、総合地球環境学研究所インダス・プロジェクト、7-16 頁

Chiba, H. (2011) "Return to the Tradition", 『東日本大震災：ルーテル教会救援ニュースレター』
第2号、JLER 救援対策本部、5頁

【口頭発表・講演】

千葉 一 (2010.9) 「南インド、カルナータカ州の栽培植物と儀礼食：エンマー小麦の調査を中心に」『遺伝資源海外学術調査の現状と課題』（第118回日本育種学会グループ研究集会、
日本学術振興会アジア研究教育拠点事業）秋田県立大学

千葉 一 (2011.7) 「防災自然公園ベルト・海の照葉樹林」プロジェクトについて『気仙沼市震災復興市民委員会』気仙沼市役所

Chiba, H. (2011.9) "Disaster Management and Capability of Regional Tradition", 『アジア学院、東日本大震災現地視察研修会』気仙沼市本吉町天ヶ沢仮設住宅仮設集会所

千葉 一 (2011.11) 「今、輝ける魂の叫び！大谷大漁唄い込み・考」『前浜、おらほのとおき 2011』気仙沼市本吉町天ヶ沢仮設住宅仮設集会所

物質文化研究グループ

宇野 隆夫 国際日本文化研究センター・コアメンバー

【著書】

宇野隆夫 (2010) 『ユーラシア古代都市集落の歴史空間を読む』勉誠出版

【論文】

宇野隆夫 (2010) 「濃尾平野における象鼻山古墳群からの眺望範囲」『文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築』立命館大学歴史都市防災センター、225-228頁

宇野隆夫 (2010) 「東アジアの天地思想と上円下方壇」『象鼻山古墳群第1～4次発掘調査の報告書』176-179頁

宇野隆夫 (2011) 「天地思想と象鼻山」『邪馬台国時代の象鼻山—古墳出現の背景を探る—』22-25頁

宇野隆夫 (2011) 「彫刻文様の拓本調査」『アイルランド墳丘墓群—ロッシホクルーを中心として』真陽社、31-56頁

Uno, T. (2011) "Changing Perception of Japan in South Asia in the New Asian Era: The State of Japanese Studies in India and Other SAARC Countries", *International Research Center For Japanese Studies*, pp. 1-381.

【その他】

宇野隆夫 (2010) 「考古学」『imidás』集英社、10項目

宇野隆夫 (2010) 「考古学」『ブリタニカ国際年鑑』218-221頁

宇野隆夫 (2011) 「考古学」『imidás』集英社、10項目

宇野隆夫 (2011) 「考古学」『ブリタニカ国際年鑑』228-231頁

遠藤 仁 総合地球環境学研究所・プロジェクトメンバー

【編著】

Osada, T. and H. Endo (eds.) (2011) *Occasional Paper 12: Linguistics, Archaeology and the Human Past*.
Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, Japan.

【論文】

遠藤 仁 (2010) 「インダス文明期石器研究の諸問題：ファルマーナー、カーンメール遺跡から
見える地域性」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』総合地球環境学研究所、
143-154 頁

遠藤 仁・小磯 学 (2011) 「インド共和国グジャラート州カンバートにおける紅玉髓製ビーズ
生産：研究序説」『東洋文化研究所紀要』第 160 冊、東京大学東洋文化研究所、340-376 頁

Takamiya, I.H. and H. Endo (2011) "Variations in lithic productions at Hierakonpolis: A preliminary report
from the excavation of HK11C Squares A6-A7", in Renée F. Friedman and Peter N. Fiske (eds.) *Egypt at
Its Origins 3*. Uitgenerij Peeters en Departement Oosterse Studies, Leuven - Paris - Walpole, MA., pp. 727-
746.

【資料紹介】

Shudai, H., A. Konasukawa, S. Kimura, T. Ueno and H. Endo (2011) "Report on the Survey of the
Archaeological Materials of Prehistoric Pakistan, stored in the Aichi Prefectural Ceramic Museum. Part 3:
Emir Ware and Quetta Style Pottery", *Bulletin of the Turumi University: Studies in Humanities, Social and
Natural Science* 48(4). Turumi University, pp.73-110.

【報告書】

Konasukawa, A., H. Endo and A. Uesugi (2011) "Chapter 7: Minor objects from the settlement area", in V.
Shinde, T. Osada and Manmohan Kumar (eds.) *Excavations at Farmana, District Rohtak, Haryana, India,
2006-2008*. Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, Japan, pp.369-529.

【その他】

遠藤 仁 (2011) 「生命の循環—屠畜 インドの西部のフィールドから」『大学共同利用機関法
人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所報「地球研ニュース」』33、総合地球環境学
研究所、10 頁

ぼちぼちと京都「世界の各地域の自然と文化の紹介や環境問題に関するレポート」に転載
http://www.bochibochikyoto.jp/modules/column/index.php?content_id=77

遠藤 仁 (2011) 「ラージプートの祝宴 ラージャスターン州ジョードプル県シュメールプル」
『インド通信』397、インド文化交流センター、1-3 頁

【研究発表】

遠藤 仁 (2011.6.4) (早稲田大学) 「インド共和国グジャラート州カンバートのムスリム職人に
よる瑪瑙製工芸品生産」早稲田大学イスラーム地域研究機構拠点強化事業『「モノ」から見
た知の技術と生活文化の変容と交流』第 1 回研究会

酒井 英男 富山大学大学院理工学研究部・プロジェクトメンバー

【論文】

Kashiwaya, K., A. Szyniszewska, H. Sakai, and T. Kawai (2010) "Climato-hydrological fluctuations printed in lacustrine records in Lake Hövsgöl, Mongolia, Quat", *Int.* 219: 178-187.

【報告書】

酒井英男・菅頭明日香・秋山真好 (2010) 「新潟県谷地遺跡・屋外炉遺構の考古地磁気研究」『新潟県埋蔵文化財調査報告書』第 193 集、84-90 頁

岸田 徹・泉 吉紀・酒井英男 (2009) 「犬山市東之宮古墳における地中レーダ探査」『犬山市埋蔵文化財調査報告書』第 6 集、犬山市教育委員会、58-60 頁

伝承文化研究グループ

大西 正幸 総合地球環境学研究所・コアメンバー

【著書（単著 / 分担執筆）】

Osada, T. and M. Onishi (eds). (To be published in March 2012.) *Language Atlas of South Asia*. Revised Version. Harvard University Press.

Onishi, M. (2011) "A Grammar of Motuna", *OGFAUS (Outstanding Grammars from Australia) 09*, Lincom Europa, Munich, Germany.

【編著書（共編共著）】

Osada, T. and M. Onishi (eds.) (2010) *Language Atlas of South Asia*. RIHN, Kyoto, Japan.

【翻訳（共訳）】

長田俊樹・大西正幸・森 若葉共訳 (2012 年出版予定) エヴァンズ著『絶滅言語—少数言語の消滅で人類は何を失うのか（仮題）』京大学術出版会（原著：Evans, N. 2010. *Dying Words*. Wiley-Blackwell, Chicester, UK.）

【論文（単著）】

大西正幸 (2011) 「ナーシオイ語民話テキスト」『地球研言語記述論集 3』地球研インダスプロジェクト、209-243 頁。

【編集（共編）】

大西正幸、稲垣和也（編）(2011) 『地球研言語記述論集 3』地球研インダスプロジェクト

大西正幸、稲垣和也（編）(2012 年 3 月予定) 『地球研言語記述論集 4』地球研インダスプロジェクト

【ニュースレター】

大西正幸 (2012 年 3 月予定) 「所員紹介 ブーゲンヴィルの危機言語—言語多様性と地球環境問題」『Humanity & Nature Newsletter 地球研ニュース』38 号、地球研

【その他の出版物】

大西正幸 (2011) 「序文」『地球研言語記述論集 3』地球研インダスプロジェクト、iii-iv 頁

大西正幸 (2012 年予定) 「ベンガル文学」『南アジアを知る事典』改訂版、平凡社

【新聞記事】

Dainik Agradut (『毎日の先がけ』、インド・アッサム州ゴウハティ市発行) 2011 年 9 月 26 日付

記事。「コチ・ラジュボンシの言語文化に関する国際シンポジウムの閉幕 — 日本人の研究者 大西博士が招待講演を行う」“International Seminar on the language, culture and society of the Koch-Rajnongshis concluded successfully — Dr Onishi, a Japanese researcher, was an invited speaker”

【口頭発表】

Onishi, M. (2010) "Bougainville (Papua New Guinea): The struggle for keeping traditional languages and cultures alive in the globalising world", Chotro 3, Toshali View, Chail, Sep. 14, Uttar Pradesh, India.

Onishi, M. (2011) "Documentation of endangered languages and cultures", Visiting seminar, Sep. 22, North Bengal University, Siliguri, Jalpaiguri, West Bengal, India.

【基調講演】

Onishi, M. (2011) "The language and culture of Rajbansis from a global perspective", Keynote speech, International workshop on Koch-Rajbansi language and culture, Sep. 24, Kokrajhar, Assam, India.

北田 信 大阪大学世界言語研究センター・プロジェクトメンバー

【論文】

北田 信 (2010)「千年前の歌声（続） カトマンドウ盆地のチャチャー歌」『南アジア古典学』第 5 号、九州大学インド哲学史研究室、161-176 頁

北田 信 (2010)「ダキニー・ウルドゥー語の歌詞集成『Kitāb-i Nauras』の言語におけるアラブ・ペルシア的特徴」『東京大学言語学論集』第 30 号、東京大学言語学研究室、83-91 頁

北田 信 (2010)「中期ベンガル語の韻律について」『環境変化とインダス文明 2009 年度成果報告書』総合地球環境学研究所、155-159 頁

【口頭発表】

北田 信 (2010.5.30)「ヘーヴァジュラタントラの金剛歌とカトマンドウの音楽」日本印度学宗教学会第 53 回学術大会、大阪国際大学

北田 信 (2011.9.28)「ベンガルのエクスタシー」日本南アジア学会第 24 回全国大会。共通論題「イスラーム的 世界としての南アジア—接触領域のダイナミズ」、大阪大学

【招待講演】

北田 信 (2010.10.16)「秘密の宴—古ベンガル語の仏教修行歌集とバウル」第 1 回バウル研究会（南アジアの遊行芸能者の世界—ベンガルのバウルにおける思想と実践）。科研・宗教紛争の比較研究・第 5 回研究会共催、広島大学大学院国際協力研究科

児玉 望 熊本大学文学部・プロジェクトメンバー

【著書（分担執筆）】

児玉 望 (2010)「付属語のアクセント—鹿児島方言」上野善道（監修）『日本語研究の 12 章』475-489 頁

Kodama, N. (2010) " 'Urdu', 'Marathi', 'Sinhala', 'Dravidian languages', 'Southwestern India', etc", In Osada, T. and M.Onishi (eds.) *Language Atlas of South Asia*. RIHN, Kyoto.

Kodama, N. (To be published in March 2012) "'Scripts', 'Urdu', 'Marathi', 'Sinhala', 'Dravidian languages', 'Southwestern India', etc", In Osada, T. and M. Onishi (eds). *Language atlas of South Asia*. Revised Version. Harvard University Press.

【論文】

児玉 望 (2011) 「日本語諸方言の韻律境界と領域」『ありあけ 熊本大学言語学論集』10

後藤 敏文 東北大学大学院文学研究科・コアメンバー

【論文】

Goto, T. (2011) "The Rigveda Dictionary from a modern viewpoint", *From Past to Future: Graßmann's Work in Context. Graßmann Bicentennial Conference*, September 2009. Eds.: Petsche, H.-J.; Lewis, A.C.; Liesen, J.; Russ, S. Basel (Birkhäuser, Springer), pp. 363 – 376.

後藤敏文 (2011) 「資料 ヴェーダ文献に見られるプルーラヴァス王と天女ウルヴァシーの物語」
篠田知和基編『愛の神話学』楽瑯書院、435-480 頁

【雑文】

後藤敏文 (2010) 「ぶじ往還の記」『インダス・プロジェクト ニュースレター』第7号、地球環境学研究所インダス・プロジェクト、2-8 頁

後藤敏文 (2010) 「ヴェーダとインド・ヨーロッパ語族の文化」奈良康明・下田正弘編『新アジア仏教史』1「インド I 仏教出現の背景」佼成出版社、174-177 頁

【学会発表】

Goto, T. (2011) "A survey of some evidences for the development of Yajurveda and Brāhmaṇa texts" (ヴェーダ散文文献の展開に関する論拠の概観), The Fifth International Vedic Workshop. Vedic śākhās: Past, Present and Future (第5回ヴェーダ研究会), 2011年9月20 – 23日ブカレスト (ルーマニア).

【一般講演・発表】

後藤敏文 (2010.8.3) 「『業と輪廻』をさかのぼるーヴェーダ文献とことばの力」第54回智積院
暁天講座、智積院

後藤敏文 (2010.1) 「ヴェーダ文献に見られるプルーラヴァス王と天女ウルヴァシーの物語」比較
神話学シンポジウム「愛の神話学」、名古屋市市政資料館

後藤敏文 (2011.2.16) 「『業と輪廻』をさかのぼる」佼成学園

後藤敏文 (2011.6.23) 「『業と輪廻』をさかのぼるーヴェーダと仏教」叡山学院

後藤敏文 (2011.11.4) 「ヴェーダ文献に於ける個人」東方学会シンポジウム「古代インドに於ける
個の自覚と自律」(中谷英明主宰)、日本教育会館 (東京)

高橋 慶治 愛知県立大学文学部・プロジェクトメンバー

【著書 (分担執筆)】

Takahashi, Y. (2010) "'Nepali', 'Tibeto-Burman languages', 'Northwestern India', etc" In Osada, T. and M. Onishi (eds.) *Language Atlas of South Asia*. RIHN, Kyoto.

Takahashi, Y. (To be published in Mar 2012.) "'Nepali', 'Tibeto-Burman languages', 'Northwestern India', etc", In Osada, T. and M. Onishi (eds). *Language Atlas of South Asia*. Revised Version. Harvard University Press.

【論文】

Takahashi, Y. (forthcoming) "'On a suffix of middle voice in Kinnauri (Pangi dialect)'" In Nakamura, W. and R. Kikusawa (eds.) *Objectivization and Subjectivization: A Typological of Voice Systems, Senri Ethnological Studies*, Osaka: National Museum of Ethnology.

高橋慶治 (近刊) 「キナウル語の述部構造について」 澤田英夫 (編) 『(表題未定)』 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

【口頭発表】

Takahashi, Y. (2011.9.8) "On the usage of tseyaa and seyaa in Kinnauri", 17th Himalayan Languages Symposium (6--9 Sept., 2011).

外川 昌彦 広島大学大学院国際協力研究科・プロジェクトメンバー

【共編著】

Abhijit Dasgupta, M. Togawa and Abul Barkat (eds.) (2011) *Minorities and the State: Changing Social and Political Landscape of Bengal*. New Delhi: SAGE Publications.

【共著】

外川昌彦 (2010) 「シンクレティズム」 下田正弘・林行夫編 『新アジア仏教史』 佼成出版社、106-108 頁

外川昌彦 (2010) 「ヒンドゥー教—植民地主義的構築説をめぐる」 田中雅一・田辺明生編 『南アジア社会を学ぶ人のために』 世界思想社、104-115 頁

外川昌彦 (2011) 「バングラデシュのバウルの宗教世界」 鈴木正崇編 『南アジアの文化と社会を読み解く』 慶應義塾大学出版会

外川昌彦 (2011) 「バングラデシュの聖者廟と観光開発」 山中弘編 『宗教とツーリズム』 世界思想社

外川昌彦 (2011) 「バングラデシュの独立宣言」 『世界史史料』 11.12 巻、岩波書店

【論文 (査読有)】

外川昌彦 (近刊予定) 「一本の樹の無数の枝葉—1920 年代の宗派暴動とマハトマ・ガンディーの宗教観の変遷」 『現代インド研究』 第 2 号、『現代インド研究』 編集委員会、人間文化研究機構地域研究推進事業「現代インド地域研究」

外川昌彦 (2011) 「想起される「ガンディー」—パルタ・チャタジーの市民社会批判とマハトマ・ガンディーにおける非暴力思想の形成」 『国立民族学博物館研究報告』 36 巻 2 号

「ガンディーと共に暮らす—1930 年代の日印関係と藤井日達インド体験」 外川昌彦 査読有 『東洋文化研究所研究紀要』 第 159 冊、2011 年 3 月, pp. 322-360

【論文 (査読無)】

- 外川昌彦 (2010)「衛星テレビとイスラーム—宗教と社会」『地球の歩き方・バングラデシュ』ダイヤモンド・ビッグ社、206-207 頁
- 外川昌彦 (2010)「マハトマ・ガンディーと藤井日達—1930 年代の日印関係」『宗教研究』第 363 号、日本宗教学会、395-396 頁
- 外川昌彦 (2010)「ガンディーが歩いた道—1946 年のノアカリ暴動と今日の南アジア」『季刊・民族学』131 号、40-45 頁
- 外川昌彦 (2010)「バングラデシュのある観光都市における開発と人類学」科研報告書、代表・三尾稔『南アジア地域における消費社会化と都市空間の変容に関する文化人類学的研究』274-286 頁
- 外川昌彦 (2011)「マハトマ・ガンディーとの邂逅— 1930 年代のインドにおける藤井日達とその弟子たち」(1) ～ (6)『サルボダヤ』(11 月号より 6 回の連載予定)
- 外川昌彦 (2011)「ベンガルの季節のめぐり」『遡河—バングラデシュの社会と文化』第 16 号、74-77 頁
- Togawa, M. (2011) "Local Society and the Fieldworker: A Campaign for Protecting the Mausoleum of Fakir Lalon Shah in Bangladesh in 2000. Discussion Paper." 広島大学・平和構築連携融合事業 (HiPec)
- 外川昌彦 (2011)「インド・ベンガル地方におけるヒンドゥー女性と儀礼—通過儀礼としてクマリ・プロト」科研報告書、代表・吉田修『アジアにおける実践を通じた「差異化」克服の理論構築—平和協力への「もう一つの道」』57-83 頁
- 外川昌彦 (2011)「マハトマ・ガンディーにおける宗教倫理と政治思想」『宗教研究』第 367 号、日本宗教学会、252-253 頁
- 【翻訳 (ベンガル語)】
- 外川昌彦 (2011)「タゴールの詩—タゴール生誕 150 周年に寄せて」『遡河』第 16 号、40-43 頁

森 若葉 総合地球環境学研究所・プロジェクトメンバー

【論文】

- Maekawa, K. and W. Mori (2012) "Dilmun, Magan, and Meluhha in Early Mesopotamian History: 2500-1600 BC.", In Osada, T. and M. Witzel (eds.) *Cultural Relations between the Indus and the Iranian Plateau during the Third Millennium BCE. Harvard Oriental Series. Opera Minora* Vols. 7: pp.237-262.
- Mori, W. (2010) "Notes on Plural verbal bases in Sumerian", In Kogan, L. (ed.) *Language in the ancient near east. Babel und Bibel*, 4/1. Eisenbrauns, Winona Lake, Indiana, pp.167-179.
- Mori, W. (forthcoming) "Plural verbal bases meaning "to go" in Sumerian", *Acta Sumerologica* 23.

【著作 (分担執筆)】

- 森 若葉 (近刊)「シュメール語」池田潤 編『古代オリエント文献案内』第 3 巻 (言語・文字編) リトン社
- 森 若葉 (近刊)「シュメール語」「アッカド語」「楔形文字」「象形文字」「ウガリット文字」他の項目、佐藤武義他編『日本語学大事典』朝倉書店

【翻訳 (共訳)】

- 長田俊樹・大西正幸・森 若葉 共訳 (2012 年 3 月出版予定) エヴァンズ著『絶滅言語—少数

言語の消滅で人類は何を失うのか（仮題）』京大学術出版会。（原著：Evans, N. 2010. *Dying Words*. Wiley- Blackwell, Chicester, UK.）

【ニュースレター】

森 若葉 (2010)「所員紹介—私の考える地球環境問題と未来 楔形文字文献の世界から」『Humanity & Nature Newsletter 地球研ニュース』28号 地球研。

森 若葉 (2011)「プロジェクトリーダーに迫る！ 窪田順平×森 若葉」『Humanity & Nature Newsletter 地球研ニュース』31号 地球研。

【口頭発表】

森 若葉 (2010.11.7)「シュメール語動詞における方向表現の分類」第52回オリエント学会、国士舘大学

森 若葉 (2010.5.8)「シュメール語動詞の方向表現」シュメール研究会、京都大学

DNA 研究グループ

斎藤 成也 国立遺伝学研究所・コアメンバー

【論文】

Reich, D., N. Patterson, M. Kircher, F. Delfin, M.R. Nandineni, I. Pugach, A. Min-Shan Ko, Ying-Chin Ko, T.A. Jinam, M.E. Phipps, Saitou N., A. Wollstein, M. Kayser, S. Pääbo, and M. Stoneking (2011) "Denisova Admixture and the First Modern Human Dispersals into Southeast Asia and Oceania", *American Journal of Human Genetics* Vol. 89, no. 4: pp. 516-528.

Yuasa I., Umetsu K., Matsusue A., Nishimukai H., Harihara S., Fukumori Y., Saitou N., Jin F., Chattopadhyay P.K., Henke L., and Henke J. (2010) "A Japanese-specific allele in the GALNT11 gene", *Legal Medicine* Vol. 12: pp. 208-211.

Jinam T.A. , Saitou N., Edo J., Mahmood A., and Phipps M.E. (2010) "Molecular analysis of HLA Class I and Class II genes in four indigenous Malaysian populations", *Tissue Antigens* Vol. 75, no. 2: pp. 151-158.

【著書】

斎藤成也 (2011)『ダーウィン入門』ちくま新書